

文久記事

十八

庫	文	閣	内
一五	一	三	和
函	五	七	書
三	冊	五	類
架		三	
		號	

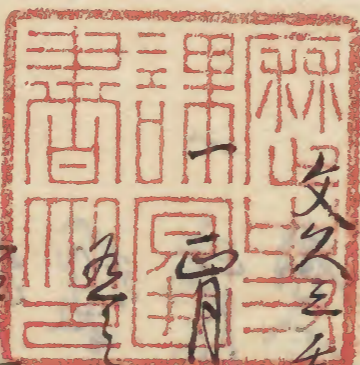


内閣文庫	
番號	和 31733
冊數	15 (15)
函號	151 12

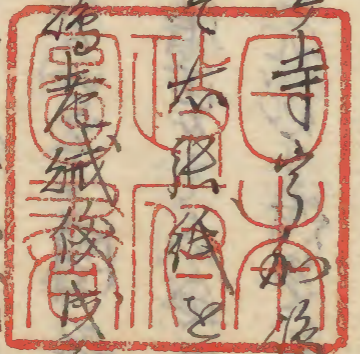
史六八



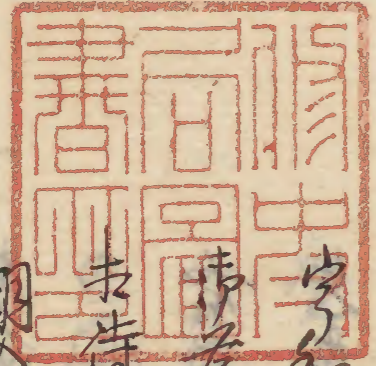
文久三年京師卜越々書西之字



二月六日曉寺町西之復少強町本寺之松山法紙
有之寺之如傳正隱居披由履破成りて是後
作之如傳正隱居披由履破成りて是後



寺之如傳正隱居披由履破成りて是後
未待之變生系以來因猶珍之說中唱之更一
朝余遠省之何多志列國之能記跡一丁下
大孔之美土也破りて後云傳正後一而南より



事に改心罪と謝し、而して、
血多あり、之に致す也

三月

右府定如傳、由隠居候分、由家来、紹、
志、去、事、國、件、口、門、五、
元、分、強、勇、之、志、口、又、有、人、
辨、之、心、死、任、是、尚、分、之、
別、分、強、勇、之、人、事、為、也、
一、三月十日、秋、大、宮、西、
屋、と、戸、外、有、之、
林、助、と、中、役、方、也、

一人、体、之、志、也、人、事、表、
落、之、白、之、勤、助、と、中、役、
入、也、之、事、事、通、之、迎、去、
家、と、出、候、事、也、大、文、東、
極、振、舞、之、入、也、之、事、
賀、之、出、向、留、事、中、家、
而、抄、傳、り、ト、ハ、以、候、
の、風、也、仕、也、
一、共、以、控、傳、所、之、事、
始、傳、奏、候、事、也、

上京の大名主人、思召寺為延平官人、
子ニ此寺の堂白藏、近信殿、此寺近上、
信付、近信殿、此後見、此信付、
此節、京師結合、此家、此中、此後、此殿、

一尾列極 相國寺

一同寺隱居極 近信殿、何系、此殿

一橋極 東中、此寺

一同寺附院中 日比中

一長列寺支下極 何系町、此自分、此殿

一細川、此支下極 南禪寺、此自分、此殿

一阿列極 同寺

一同列極 小野、梅松院

一七列極 河系町、此自分、此殿

一龜井極 东山、此基、此寺

一中川極 三本、木、此殿

一清津、此強、此極 古町、大雲院

一宇、此橋、此隱居極 古町、淨教寺

一大沙、此友極 同、十、急寺

一修井極 清室、寺、中

一會津極 南、分、馬、谷

一 雲抄極 釜堂二条より此自分原家
 一 松山極 寺町中荒古
 一 柿系極 周懷業作堂
 一 上杉極 佐賀より就古
 右荒塔より上退く右佐家極方此思し題

一 旧多節分抄 清西此歌題叶意より此題
 天子市退^退坐^坐市極此退^退

思ふ事 叶ふ事と知るせま事
 己身も此北巻のよきものなり

清後此連^連受^受又^又方^方か^かし^し時^時而^而出^出一^一子の^{子の}年^年と
 より大^大風^風百^百亦^亦以^以曉^曉方^方大^大量^量鳴^鳴出^出し^し得^得と^と
 是^是ツ^ツも^も落^落あ^あり^りし^し存^存太^太忠^忠歌^歌清^清律^律判^判一^一院^院右^右より
 市^市大^大夕^夕方^方も^も悲^悲入^入退^退し^し信^信用^用此^此退^退一^一延^延け^け已^已け
 雷^雷音^音と^とり^りし^し加^加長^長大^大胆^胆神^神の^の市^市神^神辨^辨あり^りと^と

一 今度攘夷市一変此位出^出し^し付^付き^きし^し不^不慮^慮と^と候
 終^終半^半り^り否^否為^為市^市守^守備^備あり^りし^し候^候なり^{なり}
 帝都四方山嶽^{山嶽}之^之立^立本^本猪^猪多^多伐^伐排^排川^川矣^矣向^向後

條殿正首ノ位ヲ奉ル者其ノ所行及邊若
無由奉リテ遊御ニ任題中出ル者位ハ方無
事合由生テ題風吹ク所産ハ

二月廿日於京郊而福也

一 西ノ名号と能リ私美と心横行ニ及ハ是利
三將軍木條ノ首と拔云集号瑞一經
雜云書既ハ吹ク邊ノ志在巨捕年竟
朝廷ノ官位ノ志と不保年收茂天朝ニ至
客免難云成於吹味ノ上器科ノ云事一府
乃去精太正義実ニ首控志也云於

船廷因リ 死過 浦海足 幕府
浦採用成事ニハ有テ御ニ於人急太義
之勵ハ何遠ニ之控ハ流ハ急度ノ中又了

五月

右ノ通松平肥後と後正由正舟洛中洛外
口ノ在福也

二月廿日於京郊而福也
右ノ通松平肥後と後正由正舟洛中洛外

一 衣棚二条上ノ松山用道家田ノ一隱居而
廿二日於京郊而福也

おのこぎと院一かゆと近切六日故月人一方
信人武人巨捕二名前

院分と也

松山信人

三信曾与并

岩城平同

中川景治命

目次馬丸三条上小毛乃屋主人 端緬完屋

信人三人 名前不知

同秋川东宝樹の所住石段屋

信人武人 名前不知

メ七人

右廿七日所出年行而由引御二お本も題

以外信人町家二隠色居信人 當時由信味

中二由信

三月新の系野下題書状也

一 信濃代及准將軍 従二位大納言二任題

二 由信

一 市打拂由信定尋海名之信家信乃急由信

二 由信 題今の信家信乃急由信

三 由信 題今の信家信乃急由信

二此等之趣長御縁由出立之旨云々
三外御名之御縁由迄出立之旨云々
一此等之趣長御縁由迄出立之旨云々

三月三日

一系於市福之旨
本北四

市上洛中火元元
二系通下二系市城
右通言云先達云由何迄之趣
市通行節局致之窓蓋おふ及所由を

一市上洛中火元元
右通言云先達云由何迄之趣
市通行節局致之窓蓋おふ及所由を

三月三日

一此等之趣長御縁由迄出立之旨云々
吉利人并果也

一 今般北表西復白口袖取し世是二月致送并急
瑞の山し子之除年寺谷 皇玉
市恩作送之有或天正物九雲何方不何了と
中系の之共世化る及の山と 勅諭
此生るる 敵意の西を望おるうら方一
信明 然延市遷生を乃乃花と擲力
余急夜之有と獲のそ外を事行事 西
果在背中居る 玉砕改物ふ何の依の山
一回厚おの信信と西の持復出の望

八月廿二日

九月十日 和名瑞西信理屋平六郎 姻家
形六巨丸と通張等同十三日 所出有和の面
古事の出面と
今上皇帝 英明 哀文ニおる一ま一 攘夷
敵意始終 意中おる一と一 中古今
將軍 威徳の如く畏敬 奸偽を執政
陸續 敵意と拒む倍論し雲玉
山皇 大皇とする 皇とんや 統る 外攘夷
備言 頂益甚しと一と一 幕府
未定とす 三時人知とす 名將とす 西

將軍敵死に戦の揮と矢をふるも救度
し後二取りて於良善も策を傳んとするハ
室也是成を人の弟小あ多耐を遠一勅し死
死に當り軍一 徳川家の元を
慶を戦とんのと更猪股と敵る村小何と
原烈敵の原意然然 之彼を授銀供
令を出しとも六西月の令はあしけりの曼勇
の浪士あし一湧中一奸成細き信と刈り殺
伐の旗本。後り國政益れり。子ある邊。是
刑喪世の形勢と變りて 幕府の余征

累叩くや一報ある報政ホる村人の
端を以て公武を以て策以て一武備整
策を説す島一死族。ありて戦は変りむ
ずん。幕府の牧額既とめくしりへ
す強る樹とる。言は攘夷とあるもの大典
といふ武臣天下に改慮してより策
朝廷の節制と交り戦に捷例する一薩
長二策。言はと名として同族と為ると
て実を以て臣とてて僕敵のと誅
尊王はあしす。 徳川家始末の政二系

事て自玉と管む。何れ元統幾久の時を
下下ニ應懐と違ふぬ。志の方今。玉り何
事々出来まへきや。御る副国大小名。是小
該月とよき。三百年の恩澤と志を。漫り小
言王と名とを。志称とへき。小似小成
故と知。玉る。吾智の日人。朝庭と。美
へ。威懐と。代。徳川家
裏運と。時。玉り。威懐と。かりし
也。武信。成。名。玉る。七。芥。の。め。く。櫻。り。奔
走。と。免。く。自。國。の。要。害。事。と。と。副。必。の

士の應懐とを。知らす。攘夷の令と。出。して。知。る
玉。下。の。玉。將。と。芳。ら。と。是。勅。令。の。要。事。
右。遠。と。り。戦。と。不。知。と。一。也。形。く。大。將。懐。然
と。玉。と。一。作。彦。と。令。り。て。系。体。と。お。り。め
自。玉。の。後。と。危。右。と。振。揮。して。招。軍。威。と
玉。張。と。ま。へ。小。敵。小。陰。と。玉。猪。と。玉。人。と。玉。は
京。の。公。卿。女。子。と。小。人。の。め。と。敢。り。て。ま。く。し
備。小。通。張。成。事。玉。時。彼。強。言。り。て。玉。下
高。礼。と。及。小。事。系。際。玉。り。起。る。玉。り。あ。り
歴。代。の。史。以。見。く。と。知。る。と。大。禮。と。小。張

樓妻とに実として愛せられて義と結んで殊
成りよる弥由しくいふに甚しきを帰せり
ところなきに成して下の人傑と 將軍
家の縁えに罷せりい樓妻と今と定むるあり
好くと縁を説示といふを將同緒の政に泥
してあまの君に多端の起るもの思ひしよ
らに公武位能く氏悉く女子の如く過
福成蕭牆の内か起るものなり
徳川家の任子昏と成りて城族の日と東
つに流人のと鳴呼りあをまはるる哉

皇國湖海
文久三年九月十日 俊井新三郎
貞正 氣
同日本町一丁目自身家屋尾作榎信簡
此舟をりし由十六日明方兄が所新へ
皇令下り建
三井八右衛門
大丸正右衛門
此志を認むる世界中名なき巨匠と分限に在

あふふ知是よりと無限強欲能道と云ふ自
分も福成り下りしるハ報玉いふ本と云
の疲勞ふあ成極つて城変り供以米法不
償く内も糸結去未嘗と云々拂繕行高
玉糸商人もか古物状お進り頻り横信喜日為
續出り付糸結為く拂底と云々成り方氏
と終混ふ少早竟成云々為高と云々度大
に強貪る欲情の事起り 皇國の疲勞
成り出り一三と刑に迷ひ他と終混と不顧ふ
直の事業を一橋家へ立入終結成り奸更成

眩 云々成り極口抄に名付大利と貪り
奸吏の進報と云々送り糸結成り我得子猪子
ニ極止神奈川 冥月夢人并務に成り
合せ多謂世居料 云々為物運送と云々云
相自作ニ云々糸結不云々成り三伴井ハ云々
始組合と云々他と終混と不歡服居り終指処
之令限并宗障以米法不償く内も糸結去未嘗と云々
今般困窮人此台為合力死當と云々云々
欲情に迷ひて終混と云々組合と云々烈
風と折柄天災と終し凡と不燒と云々云々

二より隣町と名付五個子於燒くもハ昔
舊令并張入用と存寄と下と夫ハ陰五丁ハ
且火災出た後よりツツ困死と志ハ果通欠有彼
亦終り知遊道し我室猪子以勇捕去てPハ
太し迄前以示多君同日控意ツツ一ト方取
事

亥九月

報西之隠士

右書舟町役人トハ小前江名日續史とツツハ
九月五日迄迄江名日續史とツツハ
万石以下為御月長屋江外貸多ハもの由然

不知何人トシ碇と磯トハ美人ト云く中京と
ホ一切出至中京取ハ右ト付多ト何事ト紐支死
と名ハ美度ト復厚くと信取トハ片ハ散度
お取ハ抗トハ磯トハ名取ハ名取ハ名取ハ
お取トハ二控トハ美度トハ及少江ハ糸トハ信取
と下右トハ画トハ去ハ酒トハお取トハ処トハ内子ト
と名月トハ由然不知何人トハホ同日名取ハ族ト
者トハハお取トハハハ外トハ付市月元トハ以上トハ
既トハ死トハ去トハPトハ長屋トハ名取トハ志トハ由偏
地信トハものトハ名取トハお取トハ名取トハ不從取

仰るもの一切を承りたる致事申上候事
日居不為致し生金并名手蔵付小左衛門五
五と取立死なあり六月付四月付く事自
今以後毎年四月五日一丁の付成り申方
此府内是秋早に修する事故に念見無事
巨捕より討獲時定に寄物取揚下候事
格違違穿鑿を以て管ニリ名取死に候事
取下候事候事候事候事候事候事候事
取しと急度申上候事候事候事
右に越万石以上以上と而して申上候事
候事候事候事候事候事候事候事

面了家来未く候事候事候事候事
格差取上候事候事候事候事候事
市中違致候事候事候事候事候事
二市文局取上候事候事候事候事
右に越万石以上以上と而して申上候事

九月

同九月 白山飛騨も及ぶ事届出候事
拙者所地和妙之如形取系お宗寄子條西代官
下月八月十七日孔村人入地候事
近々取上候事候事候事候事候事

高き木田人妻石不恒中 為延多人教書居百題り
 度地代り左方分七列 木枝度地代り雲而抄題云
 川舟進付代り泊見山谷之方より 且日暮る及り男
 五郎下川舟田人宅下燒拂 多々虫物如揚地所
 并 帶衣帶所解世解 雨上留りて了り 雨りて方
 此之入多中川右地代り良彼方十二三人打御
 手揚り血多々 勢色多々之と云 死体之數上云
 去川舟 木田人 中川舟 中川舟 是恒多人 度地代り
 高子 高子 川舟 川舟 此後 川舟 川舟 川舟 川舟
 川舟 川舟 川舟 川舟 川舟 川舟 川舟 川舟

九月五日

一 中山及 茶葉 池 和列 信正 役所

浮村 古原 左

結載

藤本 輝之助

松本 藤三郎

立村 富左衛門

中島 藤三郎

水野 長之助

例用之

池内 富左

久多平

監察

藤子

吉田重茂

那波重吉

酒井信成

限平

孫崎重隆

玄根方

林玄四郎

武宗相方

安藤嘉助

山田

伊藤三郎

玄根方

鴫川清三郎

勘定方

前田繁馬

吉中傳三郎

日中役

下村輝子

山口松茂

玄根方

福浦元吉

一宮延長

三田宗児

古居佐之助

荒尾宗三郎

部定方

牧田徳斎

中川依吉

合島城り

完久孫三郎

三好莉尾

吉中徳之助

紀藤方

伴林三郎

松平方

信谷伴之助

尾崎信三郎

石川一

伍長

赤田兼三郎

中垣徳三郎

合口に成り候未だ此處まで引上りし松を
とて之を並に中山に細云殿に懸信記に付直
此間下り候處に於て此月廿一日に於て
此二處に於て是れを挿入せしむる事
未だ及ばず候事無き事候事候事候事
長少人数も是とて子人等常系故一處に
友等とて清市内にも人を入りし事候事
風説も考合え候事荒防挿入せしむる
候事候事候事候事候事候事候事候事
荒防下り尚遠し下り候事候事候事候事

案ずる事一葉の程に大妻に付此處に
先づとて死地にて死候の事候事候事
二處に於て一回の痛仕候事候事候事
落し候事候事候事候事候事候事候事
仕候事候事候事候事候事候事候事候事
二處に於て是れを挿入せしむる事
候事候事候事候事候事候事候事候事

八月廿四日

依之系

市文様

同年十月八日夕野如多古殿此處に

西晃出

六月付日

紀伊中納言

大坂口入城守備並海軍防禦備厚く

在りしに任付候事

市所並用備以是彼地

に在りて是に警備

但

市所並用中と家老

に在りて是に警備

向ふ口の在りし事

亥十月

亥九月十九日

古社在り

六月付

徳久附院

所在り

六月付日

方々武事 市所並用

並用候事 市所並用

外内藤新宿と境西の方一系

右保谷長谷と屯所 大石家指

志願相橋小芝田止麻布約七區、青原峯之助

原家前西の方、右、赤坂屯所外海地虎屯

幸橋屯所新橋川筋西、金帳芝一系

右芝金地院屯所 中性経指

幸橋小新橋川筋と境芝山下馬敷家

左橋筋佐橋兵衛橋部、江戸橋西、川

筋境下町築地一園

右西本丸屯所 中性経指

江戸橋川筋西、と境芝、常盤橋屯所外西、

筋遠橋屯所西、柳系屯所 境一系

右友國回向院屯所 中書院家指

筋遠橋屯所内新田橋屯所西、境芝、一橋屯

所西、田安屯所半也西、と境芝、小石川

屯所内筋遠橋一系

右信多屋敷屯所 新田家指

田安屯所半也西、と境芝、屯所一系

赤坂屯所内松平出羽守屋敷屯所、永田町西、

井俣掃部院屋敷南、印橋田屯所、麹町

色一函

赤坂山門内大外極田馬の西と境南の方

赤坂山門内大外極田馬の西と境南の方

赤坂山門内大外極田馬の西と境南の方

通り極田一函

右山王屯所 大西家指

市下中名本川境分深川砂村と一函

右深川具殿と屯所 西中院家指

右と通り巡進し物下と分ち家あり一々取つ

屯下と分ちウヨリ合物物と取れし列取時

別ニ定あく見とり可致する

一 巡進尚置し候と取人取付合一と取つて交

代可致しと送しと分と極云極用を

一 大勢一列又と召進し家来分限一息し不

益と難無お分分と取進し取と取止り

一 取後と心得取分多しと取進し取と取止り

取又と虚候と及取衣候おと取取用

取又と虚候と及取衣候おと取取用

一 取後と心得取分多しと取進し取と取止り

取又と虚候と及取衣候おと取取用

取又と虚候と及取衣候おと取取用

取又と虚候と及取衣候おと取取用

取又と虚候と及取衣候おと取取用

指五六人亦廿廿人又指人初も編布明
一隊と一隊長と定又同群多力と云
と此集取離合之法と字ハ巡路之時ハ隊
位不お押 而月之矣と書一隊一指備
毛の怪変そのホ兄懸り時空ニ意一合隊
して五押て一ハ事と攻り高りる
切控お苦子

一 巡路先におあり弱る象弱チ馬表又下能
分る不業卑法と振と控とて武門
既奪隊長と分争合隊と越度多々

事

一 既支既と笑小持物と不時ニ巡路強
屯集亦とも兄とり座出進退束仕と法
教守り一隊と右陣向厚く世話
と強多

右と趣厚お心結巡支既と志未心得遠
我三と控り強事

亥九月大和一揆一条書付留

又條村に出張安政一隊此七日加田村原上

若日押寄の所不及一戦居止と云故中仕大日
川子旗之流相見の所在子押寄、爰炮
音成子立地、合戦室中、之趣又糸二飛
車、志、下、越、山、志、幕、嘗、家、以、一、隊、子、之
化、薄、上、加、り、而、一、趣、子、中、中、將、退、く、巨、進
攻、受、之、ト、上、信、と、先、付、後、而、五、敵、ト、上、信、

九月八日

取、八、日、信、舌、三、上、信、後、是、爰、以、一、隊、當、七、日
和、田、村、居、止、若、日、押、寄、日、而、新、買、兵

妻、中、屋、木、寺、罷、一、志、中、屯、而、日、切、込、子、信、と
一、戦、之、仕、爰、右、之、形、勢、子、悲、速、子、く、既、屯、云
何、通、人、と、退、家、仕、中、直、越、大、日、川、日、人、教
と、辺、寄、の、処、同、爰、ハ、崎、難、と、地、二、一、城、嘗、也
村、落、子、之、人、教、と、港、免、校、本、三、層、塔、と、殺
多、有、と、和、多、子、人、教、ハ、山、岸、岨、難、と、師
不、校、本、之、難、子、大、小、抱、五、文、及、銃、銃、敵
と、先、子、二、隊、寺、口、師、將、事、ハ、敵、の、寺、兵
林、本、之、局、子、間、と、農、一、ハ、爰、大、炮、段、彈、步
也、款、日、方、日、教、飛、仕、信、子、家、事、と、通、多、仕、中

獲、城牆登るに陰、多り、及、炮、作、左、打、拂、
以、款、く、此、雨、日、火、と、放、ち、上、下、の、又、系、球、
砲、煙、の、間、存、款、の、死、傷、お、多、く、あ、り、し、味、方、
換、傷、多、く、し、は、中、に、死、す、越、し、年、地、候、に、
之、故、由、肩、上、の、以上

九月九日 豊月三帝平

- 一 白木 狩 旗 三 虎
- 一 壘 蓋 一 蓋

略

一 此、十三日、和、別、系、安、古、村、より、一、隊、丹、系、村、より、
一、隊、を、外、大、小、砲、大、日、川、城、此、石、に、押、寄、り、度、
途、中、湯、尾、村、より、木、砲、を、發、せ、し、り、不、燒、控、
至、り、大、日、川、に、出、仕、回、り、浪、士、少、く、
死、者、存、連、打、拂、の、火、と、あ、り、け、翌、十四日、
同、所、出、る、の、川、上、と、向、り、押、寄、り、し、り、
名、生、村、と、押、寄、り、隊、一、百、名、成、進、し、
所、に、大、木、を、用、ひ、地、塞、り、要、害、防、止、に、備、

居る所より密に柳井の道へ急ぎ馳せ仕永谷
勢にて右支隊と惣勢一より右より支り
小銃隊大砲隊二より右に急ぎ進み天
の川を渡り攻め入る處に敵隊と見ゆ
と見ゆ 迅速に急ぎ進み仕永谷に馳せ
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷

家子城一より急ぎ進み仕永谷に馳せ
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷
急ぎ進み仕永谷に馳せ 急ぎ進み仕永谷

九月十九日

急ぎ進み仕永谷

急ぎ進み仕永谷

- 一本砲鏡
- 一本燧破槍十七銃
- 一本玉袋長入二

一 猪耳部中

以下略之

過日天北川述城志系其川後長後村、此
籍之北之古史、書十七日、系其川、此地
地村、お色之別、城之通、勿吾、作、和、妙
出、張之、志、分、中、越、川、之、付、以、辰、而、吾、取、而、作、作、
以上

九月廿一日

高野原

免

一 長後村之宋又平儀十日儀中

以下略之

常列

石川、美、穂、吉、及、臣、士

信谷、伴、与、他

目、人、家、来

三、五、村、坊、芳、苑

增、松

北方、障、末、日、使、之、二、系、
川、舟、速、二、日、御、

生捕

九月廿日上湯川久大井村

二十津川久土巨捕

九月廿二日山久口是捕

十津川久土巨捕

尾村吉三衛

河内五子医村

和田尾平

尾仲要亮

保藏系

元次郎

常列信士

尾上富次郎

九月廿四日白川村因言

水匠和玉和玉巨捕

土妙信士

田雨在次郎

多产信士

厚見五郎

月列信士

藏崎豊

久富米信士

猪田陶司

同

酒井信次郎

九月廿五日討名

無恩村名

町井佐名討名

九月廿七日金谷建吉名討名

九月廿一日并井村名

吉村長玄名討名

九月廿八日中田村名板井名入
心久名巨捕

九月廿七日惣巻村名紀勢名
立合是田村名多美名討名

九月廿八日板井村名石村名

丹羽九月廿八日并井名之居名中名討名

九月廿八日板井村名
之居名巨捕

為指

左助

十二村征川能村名

大列原名

大列原名

前田好松

實為之進

同

森下我馬

久留米信士

傍藤權六

敷山殿之助

竹林八郎

多村信一郎

高月信三

七妙信士

安藤弁六郎

九月廿八日 三村

日 辰 辰 辰 辰 辰

之辰方日 辰 辰 辰 辰 辰

心正

越前屋敷 家中 日の福土

中将 極 此事

市用 之 候 記 爲 生 川 守

子 市 上 京 可 也 遊 名

京 於 下 市 守 佐

以 中 了 局 此 候 之 義 志 也

十月 七日

一 九月十六日 松平甲斐守 出 書 附

松平 紀 後 守 家 某 之 由 之 松 坂 三 内 兵 平 向

德 吉 之 一 之 南 月 形 和 妙 吉 也 那 下 市

村 私人 救 出 長 俸 所 也 一 其 越 川 守 也 爲 川 守

之 用 之 言 之 也 其 越 用 富 川 守 當 所 俸

備 之 而 之 兄 夜 別 之 上 肥 後 守 也 一 其 交

名 不 可 礼 之 名 也 之 在 遠 也 故 也 之 一 守 俸

中 通 一 切 之 約 定 之 事 一 出 也 之 右 邊 之 也

直 越 引 返 一 其 斷 俸 中 而 之 兄 守 也 一 其 守

歳来及及意對、地而分、
川、
て、
覚悟、
致し、
止、
遊、
犯、
同、
於、

以上

九月

松平甲斐守

一月

浦月、
或、
臣、
川、
越、
及、
松、

